

反原発日本訪問報告

二足のわらじ

Sayonara Nukes Berlin

Kizuna in Berlin e.V.

日程

「ロットヴァイル／チェルノブイリ市民グループ」

- 4月13日 広島：平和記念館
- 4月14日 広島：広島市立大学／東京へ
- 4月15日 チェルノブイリ広河隆一写真展／院内集会
- 4月16日 福島／大熊地区／郡山市
- 4月17日 福島市／市民測定所／県庁
- 4月18日 金曜デモ
- 4月19日 集会：チェルノブイリに学ぶ

「絆・ベルリン」

- 5月03日 「希望の牧場（浪江町14km地点）」／飯館村
- 5月07日 日独国際原子力問題シンポジウム
- 5月09日 金曜デモ

ロットヴァイルとチェルノブイリの市民グループ



広島被爆直後



広島現在



広島と原爆

- 広島の実爆: 20万人死亡(5年間): **ウラン235**
- 長崎の実爆: 14万人死亡(5年間): **プルトニウム239**
- 1938年: ベルリンで核分裂発見
- 中性子を照射→核分裂→巨大エネルギー
- 臨界状態: 核分裂の連鎖反応が起きる
- **原爆**: ウラン235(80%濃縮)一挙に核分裂起させる
- **原発**: ウラン235(5%濃縮)徐々に核分裂起させる
- トリウム原発放棄(理由: 原爆製造不可)

原爆から平和利用

- 1938年:ベルリンで核分裂発見(Lise Meitner とOtto Hahn)
- 1945年:原爆投下
- 2週間遅れて受け入れた敗戦(日本のリーダーの欠点)
- 1953年:アイゼンハワー大統領の国連演説:平和利用
- 日本でも:中曽根康弘と正力松太郎
- 原爆製造のポテンシャルが抑止力(岸信介)
- 1963年:東海村の最初の原子炉
- 2011年:54基
- ウラン235(5%)→セシウム134とセシウム137
- ウラン238(95%)→→→プルトニウム239

チェルノブイリ事故

- 原発：軽水炉型：減速材：黒鉛
- 場所：ウクライナだが、ベラルーシ国境から17km
- 事故：1986年4月26日
- 事故の原因：人的ミス
- 放射性物質の降下物：70%がベラルーシに
- 避難区域：1万平方キロメートル
- 2006年まで死者：9000人ー100万人
- 現在も低線量放射線被ばくによる傷害進行中：3世代
- 主にセシウム137による：心臓病、白血病、糖尿病、ガン
- ゴメル州出身者などでは健康な新生児は20%以下

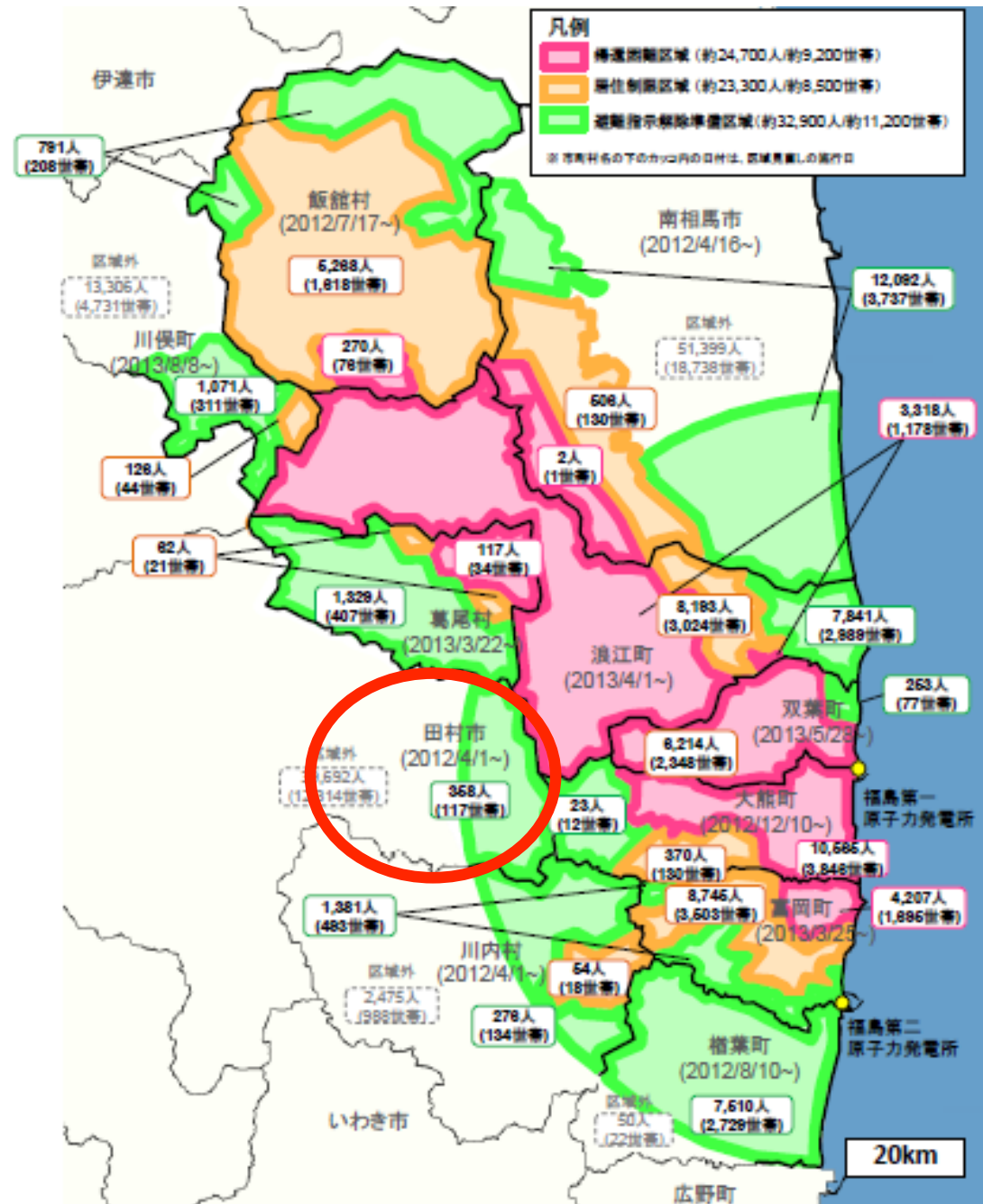
チェルノブイリ被害

- 子どもの甲状腺ガン(10万人に一人):1991年から増加
- 子どもの甲状腺ガン:1996年に国際的に認められる
- チェルノブイリ・首飾り
- チェルノブイリ・ハーツ
- チェルノブイリ・エイズ
- 日本の医師も活躍(鎌田實先生、菅谷昭先生など)
- 子どもの保養プログラム(独に5万人招待)
- 日本の基金で保養所設立(写真家の広河隆一)
- 食糧の安全供給体制なし
- ベラルーシは独裁国家:「チェルノブイリ」は禁止

福島第一事故

- 地震で運転停止したが、冷却装置ダウン
- 津波で冷却機能喪失（全電源喪失）
- 人的ミス（実地訓練していなかった）
- 崩壊熱によりメルトダウン
- ベント開放と水素爆発による建屋崩壊で、放射性物質拡散
- 雨雲によってまず北西に、後で南に
- 政府は避難指示を出さず
- 政府も自治体もヨード錠剤を配布せず

Zone 3 (Rot) langfristig unbewohnbare Gebiete



福島県田村市



福島県大熊町



帰還困難地区



福島市市民測定所(ベラルーシ製の測定器)



福島市渡利地区 (除染土は足下に埋蔵)



福島市渡利地区



空間線量(ガンマ線)

- $0.12\mu\text{Sv/h} \times 8760 = 1.05\text{mSv/y}$ ($\mu\text{Sv} \rightarrow \text{mSv}$: 8をかけてもいい)
- 広島原爆資料館: (被爆した鉄橋破片) $1.9\mu\text{Sv/h}$
- 除染土のビニール袋の山: $1.4\mu\text{Sv/h}(40\text{m})$: $1.2\mu\text{Sv/h}(20\text{m})$
- 大熊地区: $1.9\mu\text{Sv/h}$, $2.4\mu\text{Sv/h}$, $3.6\mu\text{Sv/h}$
- 郡山市: $2.4\mu\text{Sv/h}$ (hotspot)
- 福島市渡利地区: $0.3 \sim 0.4\mu\text{Sv/h}$, 溝の中: $10\mu\text{Sv/h}$
- 庭に埋められた除染土: $0.3\mu\text{Sv/h}$ (地面): $0.4\mu\text{Sv/h}(1\text{m})$
- 希望の牧場(浪江町/14km): $3 \sim 4\mu\text{Sv/h}$, $7.78\mu\text{Sv/h}$
- 千葉県柏市と市川市: $0.33\mu\text{Sv/h}$ (hotspot)
- 東京の大崎: $0.33\mu\text{Sv/h}$ (hotspot)
- 飛行機内(1万m上空): $1.5\mu\text{Sv/h} \sim 1.9\mu\text{Sv/h}$

除染か移住か

- 除染予算：1兆8千8百億円
- 20mSv/y以上：特別措置区
- 20mSv/y以下：1mSv/yを目指し、除染効果？
- 安倍政権：帰還と福島復興をしゃにむに進めている
- 10万人以上が疎開するか、仮設住宅暮らし
- 家族の分断：高齢者は帰還を望むが、子どものいる家族は戻らない
- 子どものいない地域に将来性なし
- 低線量被曝：疎開と移住が望ましい（菅谷昭先生）

金曜デモ／国会議事堂前



金曜デモ 2



OAGでのシンポジウム



チェルノブイリ法と日本の原発事故子ども・被災者支援法の違い

- 1) 住民の平均実効線量 $1\text{ms}/\text{y}$ が介入基準。この量を超えると国家が介入する。**日本は、 $20\text{ms}/\text{y}$ が基準に。**
- 2) 被災者を原発事故作業員、汚染地域からの移住者、汚染地域の住民と規定し、胎児や孫までの子どもを含める。
- 3) 健康診断は被災者は一生無料で受けられる。
- 4) 年間 1ms を越え、 5ms を下回る地域に住む人々に移住権を付与した。この移住権は、もし移住した場合、引越費用、雇用保障、住宅支援、不動産の補償などの支援を受けることが出来る権利です。**福島では沢山の方々が移住したくてもできないで住んでいる。**

	チェルノブイリ法	日本
義務的避難指示区域	5 ms/y以上（線量） 土壌中セシウム555,000ベクレル／平方m以上＊	20ms/y以上（区域）
任意避難	1 ms/y以上（ゾーンで） 土壌中セシウム185,000ベクレル／平方m以上	20ms/y以上（世帯ごと）
内部被爆の考慮	あり	なし
土壌汚染の考慮	あり	なし

- （出典：『「原発事故子ども・被災者支援法」と「避難の権利」』より。17頁）
- 線量計での測定は非常に不安定で信頼性に欠くが、土壌中セシウムでの測定は正確で、信頼できる。

避難区域の再編

- 避難指示解除準備区域：
 - 年間積算線量が20mSvに下がることが確実だと確認された地域
- 居住制限地域：
 - 年間積算線量が20mSvを超える恐れのある地域
- 帰還困難地域：
 - 5年越しても年間積算線量が20mSv以下に下がらない恐れがあり、現在50mSv超の地区
- 避難解除の基準： $3.8\mu\text{Sv/h} \times 8 \times 0.7 = 21.28\text{mSv/y}$
 - 解除されると3か月後に月額10万円の賠償金が打ち切られる
 - 解除されても戻らない家族が多い(子どものいない地域に将来性なし)

「希望の牧場(浪江町14km地点)」



「希望の牧場」・吉沢代表と



日独国際原子力問題シンポジウム

- 日時: 5月7日(水)午後5時半より8時半まで
- 場所: 桜美林大学四谷キャンパス
- 基調報告: 福澤啓臣
- 報告者:
- 遠藤哲也大使(元原子力委員会副会長)
- 村田光平大使
- Jesper Weber(在日ビジネスマン)
- 外田茂樹名古屋大学名誉教授
- 総括: 西原春夫元早大総長

知り合った人びと(敬称略)

- Friends of Earth Japan(吉田明子、満田夏花)
- 広島市立大学:湯浅正恵教授(Pflugbeilの友人)
- 「チェルノブイリ子ども基金」(代表:広河隆一):佐々木真理
- PAL*SYSTEM神奈川ゆめコープ:荒井彩
- 脱原発福島ネットワーク、福島原発告訴団:武藤類子
- CRMS市民放射能測定所 福島:佐原真紀
- 沈黙のアピール(福島県庁):佐々木慶子
- 鎌仲ひとみ(映画監督):劣化ウラン、反原発, 祝島
- 経産省前テント・東日本大震災緊急市民会議:淵上太郎、垣内成子
- The Helen Caldicott Foundation:大橋渡
- 竹山克則:広瀬隆のグループ(スペイン語翻訳)
- 佐藤真彦(金曜デモ:「ZDFのフクシマの嘘」削除問題)

佐藤氏からの写真(国会議事堂前)



佐藤氏からの写真(南さん)



福島第一の現状

- 地下水が毎日400トン流れ込み、汚染されている
- 相当量の汚染水が海に流れ込んでいる
- 4号炉の燃料プールから使用済み燃料棒を移動中
- 凍土壁工事(国家予算)を着工したが、埋設物が170か所
- ALPS(多核種除去設備)は故障ばかりしている
- 作業員:一年間50mSv, 5年間で100mSv(リセット?)
- ベテラン作業員が減少し、ミスが増えている
- 東電、国の信頼はまったく地に墜ちたまま
- 原子力村のパラドックス(技術レベルの高い日本でも起きた)

原発の将来

- 2011年:54基
- 廃炉決定:6基
- 安全基準は多少高まり、積算稼働年数は40年に限定
- 再稼働申請済み:17基
- 早期再稼働可能:川内1号と2号、伊方3号、玄海3号と4号
- 建設再開した原発:大間原発(フルMOX、函館市が反対)
- プルサーマル原子炉(1/3Pu, FulMOX:4/5Pu)
- プルサーマル原子炉(福島第一3号炉, 伊方3号炉)
- 国内で原発新設は無理なので、輸出に望み

使用済み核燃料と核燃料サイクル

- 直接処分方式(そのまま埋める): 米国など多数国
- 再処理方式: **ウラン235とプルトニウム239**を取り出し、燃料棒に加工する(英仏で)。**六ヶ所村**で。
- その燃料はMOX原子炉か高速増殖炉で燃やす
- 高速増殖炉が機能すれば、危険なプルトニウム239が燃やせる上に、核の廃棄物も減るので、夢の原子炉と言われた。
- だが、他でも日本でもこれまでほとんど機能していない
- **プルトニウム239**(原爆材料)溜まり続けている: 10トン以上
- 使用済み燃料再処理(青森六ヶ所村): 日本だけ(非原爆国)

原子力エネルギーからの撤退シナリオ

- 1) このまま再稼働を全くしない(火力発電と再生可能エネルギーで賄う)
- 2) 原発を10年と限定し、その間に再生可能エネルギーを増やす

- 申請中の原発が再稼働されても全電力エネルギー10%(火力発電と再生可能エネルギーで賄う)
- 原発の新設は絶対認めない
- 建設中の大間原発もやめる(フルMOXで危険)
- 核燃料サイクルはやめる
- 原発の輸出はやめる(使用済み核燃料物を引き取る)
- 廃炉決定後も廃炉の行程は50年以上もかかる
- 核廃棄物の最終処分についてはまったく目処が立っていない
- 電力料金の上昇: 将来への投資

具体的なプロジェクトに参加

- 1) 福島の子どもたちを一定期間疎開させる。少なくとも年に数週間の保養プログラムに招待する。
- 2) 独占的な電力会社から自立するために再生可能エネルギーを使った市民発電所を多くの地域に作る。
- 3) 移住を望む福島の方々に日本で過疎化が進んでいる地域を紹介し、移りやすいように便宜を図るネットワークをつくる。
- 4) 反原発運動を続けていく。